

平成 15 年 国民健康・栄養調査結果の速報

平成 17 年 4 月 21 日

厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会資料

平成15年 国民健康・栄養調査結果の速報について

国民の身体の状態、栄養素等摂取量及び生活習慣の状態を明らかにするため、従来の「国民栄養調査」を拡充し、「国民健康・栄養調査」として、平成15年は「たばこ」等に重点を置き、調査を実施した。

たばこに関する状況 (p.3-11)

- (1) 現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性で46.8%、女性で11.3% (図1)。
- (2) たばこが健康に与える影響について、「とても気になる」と回答した者の割合は、女性では5割以上、成人男性では3～4割 (図3)。
- (3) たばこが健康に与える影響について、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「肺がん」、「妊娠への影響」では8割以上、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」、「心臓病」では5割未満 (図5)。
- (4) 現在習慣的に喫煙している者のうち、「たばこをやめたい」と回答した者は男性の4人に1人、女性の3人に1人。「本数を減らしたい」と回答した者とあわせると、全体で男女とも約7割。一方、「やめたくない」と回答した者は、男性の4人に1人、女性の5人に1人 (図7)。
- (5) 現在習慣的に喫煙している者のうち、「禁煙を試みたことがある」と回答した者の割合は、男性で約5割、女性で約6割 (図8)。
- (6) 現在習慣的に喫煙している者において、男女とも1日に11～20本喫煙していると回答した者の割合が最も高い。40～50歳代男性の約2割は、31本以上喫煙 (図11)。
- (7) たばこを「まったく吸ったことがない」又は「今は(この1ヶ月間)吸っていない」と回答した者のうち、家庭又は職場で受動喫煙の機会が多かった者ほど、血中コチニン濃度が高かった (図12)。

肥満、運動習慣の状況 (p.12-15)

- (8) 30～60歳代男性の3割以上が肥満。20歳代女性の2割以上が低体重(やせ) (図13)。また、30～60歳代男性の約3割が上半身肥満の疑い (図15)。

栄養素等摂取、食品群別摂取の状況 (p.16-25)

- (9) 20歳以上で、補助食品等からビタミン・ミネラルを摂取している者の割合は、最も多いビタミンB₁で5.3% (表1)。

参 考

<トピックス>

国民の健康・栄養の現状 —平成15年国民健康・栄養調査結果から— ～20歳代女性、30・40歳代男性について～

1. 20歳代女性について

(1) 20歳代女性で、低体重（やせ）の者の割合は2割以上。(p. 12)

女性において低体重（やせ）の者の割合は、20歳代で最も高く、23.4%であった。

(2) 20歳代女性で、運動習慣のある者の割合は約2割。(p. 15)

女性において運動習慣がある者の割合は、年齢階級別にみると、30歳代で最も低く13.7%、次いで20歳代で15.6%であった。

(3) 20歳代女性は、現在習慣的に喫煙している者の割合が女性の中で最も高い。しかし、「たばこをやめたい」、「禁煙を試みたことがある」と回答した者も女性の中で最も高い。(p. 3, 7, 8)

女性において現在習慣的に喫煙している者の割合は、年齢階級別にみると、20歳代で最も高かった（19.2%）。しかし、現在習慣的に喫煙している者のうち、「たばこをやめたい」と回答した者の割合（41.9%）及び「禁煙を試みたことがある」と回答した者の割合（63.4%）は、女性の年齢階級の中で20歳代が最も高かった。

2. 30・40歳代男性について

(1) 30・40歳代男性で、上半身肥満が疑われる者の割合は約3割。(p. 14)

平成15年国民健康・栄養調査から初めて「上半身肥満の疑い」について把握した。男性において上半身肥満が疑われる者の割合は、年齢階級別にみると、40歳代で最も高く32.1%、次いで30歳代で29.0%であった。

(2) 30・40歳代男性で、運動習慣のある者の割合は約2割。(p. 15)

男性において運動習慣がある者の割合は、年齢階級別にみると、40歳代で最も低く20.5%、次いで30歳代で22.6%であった。

(3) 30歳代男性は、脂肪エネルギー比率が25%超。また30・40歳代男性は、野菜摂取量が少ない。(p. 17, 20)

栄養素等摂取量をみると、男性では30歳代で脂肪エネルギー比率が25.7%と、20歳代（26.5%）とともに適正比率を超えていた。また野菜摂取量をみると、最も多く摂取していた60歳代（342.3g）に比べ、30歳代（272.7g）は約70g、40歳代（278.5g）は約65g少ない摂取状況であった（20歳代は256.8gと約90g少ない）。

(4) 30・40歳代男性で、現在習慣的に喫煙している者の割合は5割以上。(p. 3)

男性において現在習慣的に喫煙している者の割合は、全体で46.8%となっており、年齢階級別にみると、30歳代で最も高く56.8%、次いで20歳代で55.8%、40歳代で55.4%であった。

平成 1 5 年
国民健康・栄養調査結果の概要

健康局総務課生活習慣病対策室

電話 0 3 - 5 2 5 3 - 1 1 1 1
内線 2 3 4 4, 2 3 4 5

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づき、国民の身体の状況、栄養素等摂取量及び生活習慣の状況を明らかにし、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象及び客体

調査の対象は、平成15年国民生活基礎調査において設定された単位区内の世帯の世帯員で、平成15年11月1日現在で満1歳以上の者とした。

調査の客体は、平成15年国民生活基礎調査において設定された単位区から、層化無作為抽出した300単位区内の世帯及び世帯員とした。

なお、コチニン濃度に関する調査の客体は、上記300単位区から層化無作為抽出した75単位区内の世帯の20歳以上の世帯員とした。

調査実施世帯数は、4,160世帯であり、集計客体数は下記のとおりである。

総数	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	9,391	572	763	424	838	1,151	1,129	1,472	1,489	1,553
血液検査	5,307	-	-	-	405	727	747	1,065	1,203	1,160
コチニン検査	1,207	-	-	-	90	166	179	248	268	256
栄養摂取状況調査	11,105	639	939	563	1,068	1,393	1,331	1,730	1,642	1,800
生活習慣調査	9,794	-	-	580	1,101	1,433	1,382	1,788	1,662	1,848

男性	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	4,243	303	381	189	386	511	504	642	666	661
血液検査	2,112	-	-	-	162	263	270	402	513	502
コチニン検査	478	-	-	-	34	62	67	87	118	110
栄養摂取状況調査	5,263	347	472	272	516	671	643	816	771	755
生活習慣調査	4,563	-	-	283	526	690	666	841	780	777

女性	総数	1-6歳	7-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
身体状況調査	5,148	269	382	235	452	640	625	830	823	892
血液検査	3,195	-	-	-	243	464	477	663	690	658
コチニン検査	729	-	-	-	56	104	112	161	150	146
栄養摂取状況調査	5,842	292	467	291	552	722	688	914	871	1,045
生活習慣調査	5,231	-	-	297	575	743	716	947	882	1,071

3. 調査項目

1) 身体状況調査票

- ア. 身長、体重（満1歳以上）
- イ. 腹囲（満15歳以上）
- ウ. 血圧（満15歳以上）
- エ. 血液検査（満20歳以上）（うち75単位区のみコチニン濃度検査）
- オ. 1日の運動量（歩行数）（満15歳以上）
- カ. 問診（服薬状況、運動）（満20歳以上）

2) 栄養摂取状況調査票（満1歳以上）

世帯員各々の食品摂取量、栄養素等摂取量、食事状況（欠食・外食等）

3) 生活習慣調査票（満15歳以上）

食生活、身体活動・運動、休養（睡眠）、飲酒、喫煙、歯の健康等に関する生活習慣全般を把握するとともに、平成15年調査では、「たばこ」及び「健康日本21中間評価関係」を重点項目とした。

4. 調査時期

- 1) 身体状況調査：平成15年11月
- 2) 栄養摂取状況調査：平成15年11月の特定の1日（日曜日及び祝日は除く）
- 3) 生活習慣調査：栄養摂取状況調査日と同日

5. 調査方法

- 1) 身体状況調査：被調査者を会場に集めて、調査員である医師、管理栄養士、保健師等が調査項目の計測及び問診を実施した。
- 2) 栄養摂取状況調査：世帯毎に被調査者が摂取した食品を秤量記録することにより実施した。調査員である管理栄養士等が調査票の説明、回収及び確認を行った。
- 3) 生活習慣調査：留め置き法による自記式質問紙調査を実施した。

6. 調査系統

調査系統は次のとおりである。

厚生労働省－都道府県・政令市・特別区－保健所－国民健康・栄養調査員

7. 用語の解説

この1ヶ月間にたばこを吸っている者	喫煙歴に関係なく「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者
現在習慣的に喫煙している者	これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者
過去習慣的に喫煙していた者	これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者
喫煙しない者	「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者
受動喫煙	室内等において、他人のたばこの煙を吸わされること
コチニン	たばこの煙に含まれる成分の一つであるニコチンが体内で代謝されてできる物質で、受動喫煙の程度を示す指標の一つ

この調査結果に掲載している数値は、四捨五入のため、内訳合計が総数に合わないことがある

Ⅱ 結果の概要

第1部 たばこに関する状況

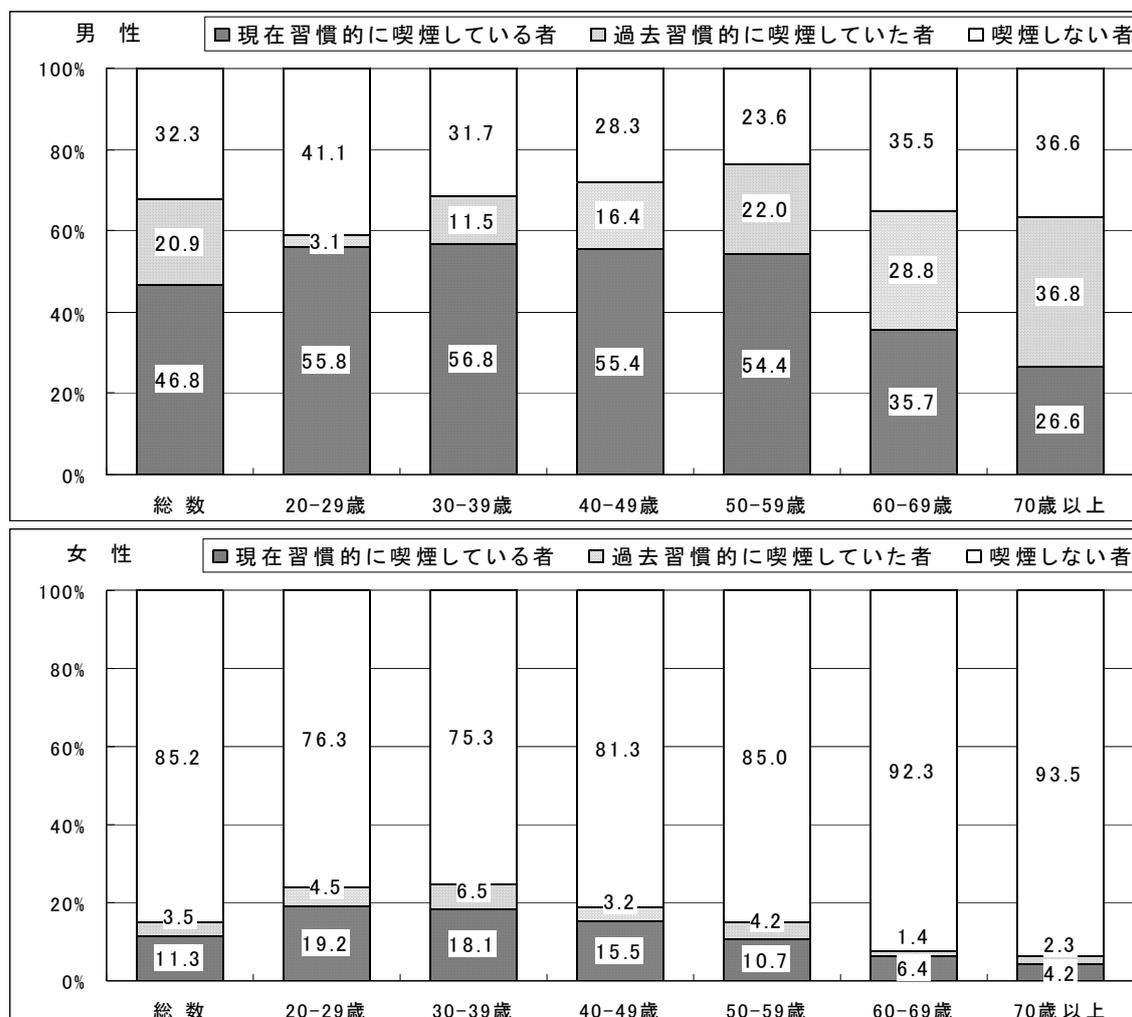
1. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性で46.8%、女性で11.3%。

現在習慣的に喫煙している者（これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者）の割合は、男性で46.8%、女性で11.3%であり、男性では30歳代、女性では20歳代が最も高く、年齢とともに低くなっていた。

また、過去習慣的に喫煙していた者（これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者）の割合は、男性で年齢とともに高くなっていた。

図1 喫煙の状況



「現在習慣的に喫煙している者」：これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者

「過去習慣的に喫煙していた者」：これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者

「喫煙しない者」：「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

2. この1ヶ月間にたばこを吸っている者

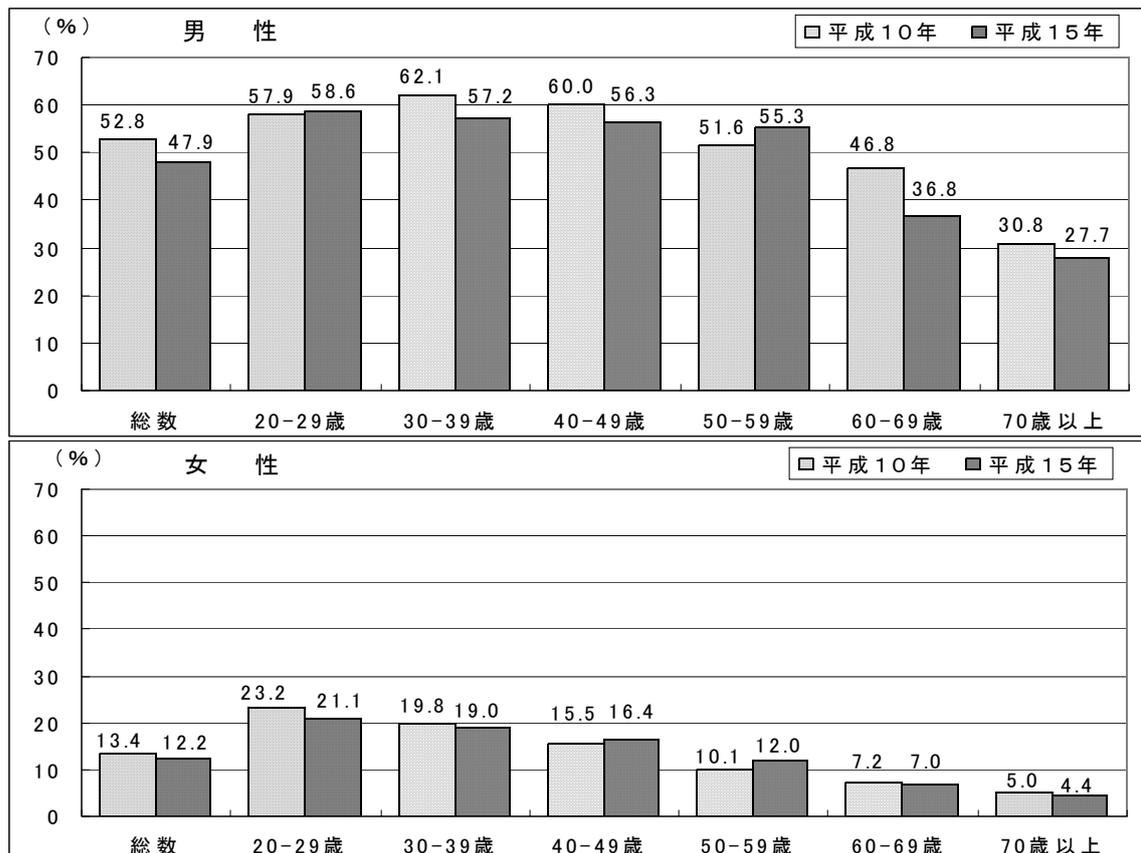
この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも20歳代が最も高く、20～50歳代男性では5割以上。

平成10年調査に比べ、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも総数で低下。

この1ヶ月間にたばこを吸っている者（喫煙歴に関係なく「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者）の割合は、20～50歳代男性では5割以上、20～40歳代女性の約2割であり、男女とも20歳代で最も高く、年齢とともに低くなっていた。

また、「平成10年度喫煙と健康問題に関する実態調査」（以下「平成10年調査」という。）に比べ、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも総数で低くなっていた。

図2 この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合



喫煙に関する平成10年のデータは、全て「平成10年度喫煙と健康問題に関する実態調査」結果より引用。（調査客体：平成10年国民生活基礎調査により設定された単位区から層化無作為抽出した300単位区内の世帯及び世帯員。20歳以上の客体数は12,034人。）

両調査とも問は以下のとおりであり、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合の定義は、喫煙歴に関係なく、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸う」と回答した者が全体に占める割合とした。

問. 「現在（この1ヶ月間）、あなたはたばこを吸っていますか。」

- 1 毎日吸う 2 ときどき吸っている 3 今は（この1ヶ月間）吸っていない

3. たばこが健康に与える影響の認識

たばこが健康に与える影響について「とても気になる」と回答した者の割合は、女性では5割以上、成人男性では3～4割。

平成10年調査に比べ、「とても気になる」と回答した者の割合は、5.1%増。

たばこが健康に与える影響について、「とても気になる」と回答した者の割合は、女性はいずれの年齢階級においても5割以上、15～19歳男性では約5割であったのに対し、20歳以上の男性では3～4割であった。

「あまり気にならない」又は「まったく気にならない」と回答した者の割合は、男性では約2割、女性では約1割と男性の方が高かった。

また、総数での平成10年調査との比較では、「とても気になる」と回答した者が増えていたが、「あまり気にならない」又は「まったく気にならない」と回答した者の割合は、変化がみられなかった。

図3 たばこが健康に与える影響の認識

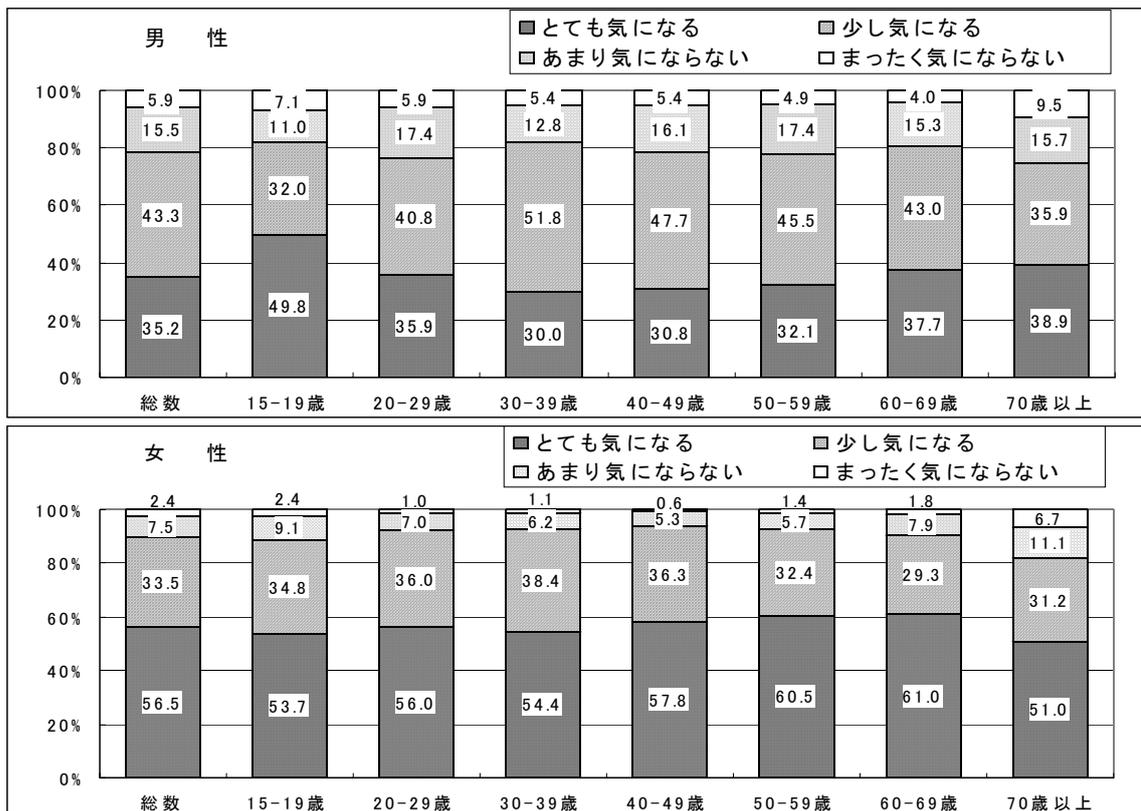
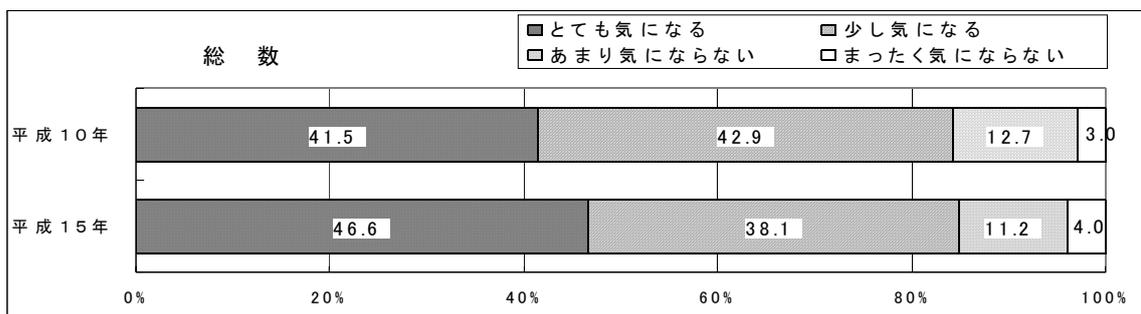


図4 たばこが健康に与える影響の認識（平成10年調査との比較・15歳以上）



4. 喫煙及び受動喫煙の健康影響に関する知識

たばこが健康に与える影響について、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「肺がん」、「妊娠への影響」では8割以上、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」、「心臓病」では5割未満。

たばこが健康に与える影響について、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「肺がん」、「妊娠への影響」では8割以上、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」、「心臓病」では5割未満であった。

また、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「胃潰瘍」を除き、平成10年調査に比べ高くなっていた。

「たばこの煙を吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合は平成10年調査に比べ高くなっていたが、「たばこの煙を吸うと心臓病にかかりやすくなる」と回答した者の割合は4割であり、他と比べて低かった。

図5 「たばこを吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合（15歳以上・複数回答）

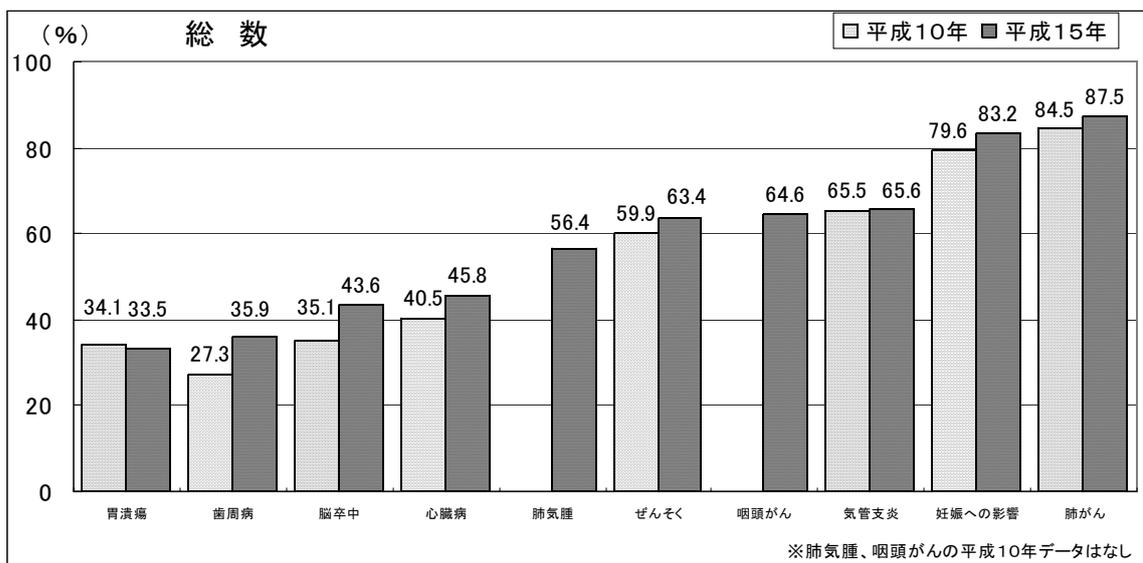


図6 「たばこの煙を吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合

(15歳以上・複数回答)

